

1年1組 体育科

めざせ 미래のオリンピック「走・跳の運動」



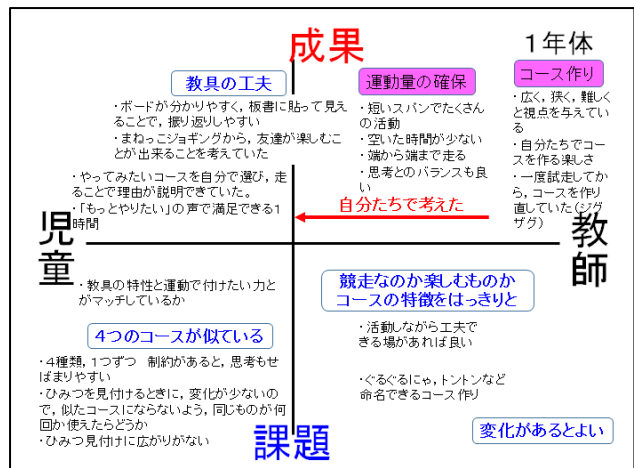
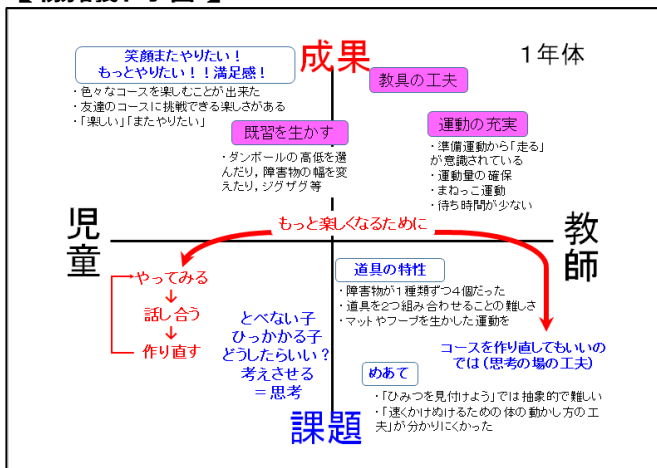
【成果】

- ・児童の言葉でゴールを共有することにより、「もっとやりたい」「楽しかった」と児童の声があった。
- ・準備運動から走の運動を取り入れ、教具等の工夫によりしっかりと運動量が確保されていた。(26分間)

【課題・改善】

- ・障害物の特性を考えさせながら、もっと自由に障害物を選ばせる。
- ・さらにもっと楽しめるコースにしていくために、試走してコースを変える活動を工夫する。
- ・東小オリンピックに向けて、コースを作っていくという課題意識を明確に児童と共有する。

【協議内容】



【指導助言1】 西部教育事務所 指導主事 吉原 知美様

- ・児童がおもしろいと感じることで、運動が苦手な児童も楽しめる。
- ・自分たちのコースが海田東小オリンピックのコースになることが意識できれば、さらに意欲が高まる。
- ・コースから帰る時に、横から見て1つアドバイスをして戻るときの工夫をしながら動きを見抜く目を養っていくことで、思考力が高まる。
- ・1つ1つのコースを試した後に、どこが楽しかったかその場で交流させる。その時に、「この動きが楽しかった」と心と体(動き)をつなげさせるように指導する。



【指導助言2】 広島県教育委員会義務教育指導課 指導主事 黒小 大介様

<「課題発見・解決学習」の単元計画をみ直す視点>

- ①目標に迫る問いを、児童から引き出せているか。
- ②児童に課題解決の見通しをもたせているか。
- ③児童にとって、課題解決に向かう必然性のある学習活動となっているか。
- ④児童の深い学びを実現するための指導の工夫が行われているか。
- ⑤目標に向かって児童の深い学びが実現していく姿を具体的にイメージできているか。
- ⑥児童が、自らの見方・考え方の深まりや学習の仕方を振り返ったり、それらを活用できる場面を考えたりする「振り返り」の場が設定されているか。

<今後に向けて>

- ・やってきたことを日々の授業につなげていく→導入の工夫、課題解決に向かう姿勢
- ・研修内容を持続可能な普及型へ
- ・学校として必要な資質・能力を明確にし、カリキュラムの評価を行う。

日々の授業を見直す視点

- 学習意欲を喚起させるような導入の工夫
- 教師が話しすぎず、児童の言語活動を充実させているか
- 目標を達成させるために必要な協働的な学びの場を適切に設定しているか
- 多様な考えを引き出す問いの工夫